

【問合せ】  
市史編さん室 ☎ 017-732-5271

# 青森ねぶた祭の歴史

いよいよ始まる「青森ねぶた祭」。華やかで盛大に行われる全国有数の伝統行事として国内外に知られ、本市の観光に重要な役割を担っています。その由来や歴史はご存知でしょうか。『新青森市史』別編民俗や『青森ねぶた誌』の記述などを参考にしながら探ってみることにしましょう。

## ねぶたの由来

ねぶたの由来については、いろいろな説があります。その一つに「坂上田村麻呂の伝説」によるものがあります。平安時代に征夷大將軍の田村麻呂がこの地の蝦夷を征伐したとき、灯ろうを使っておびき出し討ち取ったことがその始まりだとするものです。その説から昭和三十七年(1962)に審査制度が復活したとき、最優秀作を「田村磨賞」とし、平成六年(1994)まで続きました。しかし、坂上田村麻呂が蝦夷征伐のためねぶたを創案したのは伝説上の話であり、田村麻呂が青森

まで来たという根拠は何一つないというのが定説であるという理由で、平成七年から「ねぶた大賞」と改められました。

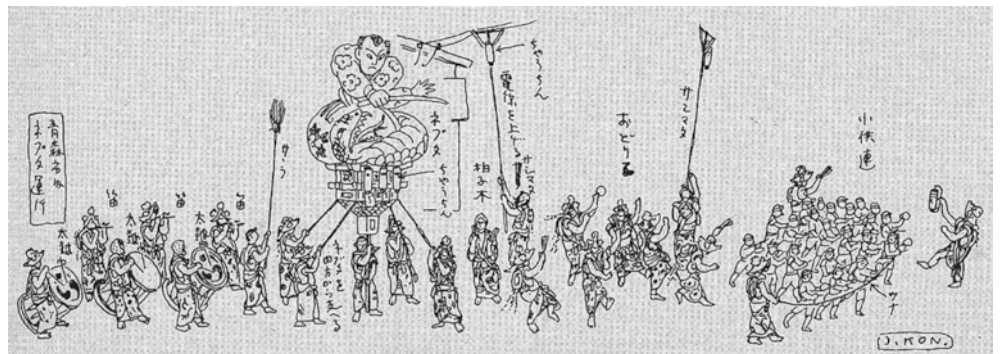
また、弘前藩初代藩主為信が文禄二年(1593)京都で大灯ろうを作らせ、これが「津軽の大灯籠」として評判になったことから始まったという説もあります。そのほかにもさまざまな説がありますが、伝説に基づくものであるなどいずれも根拠が薄いものです。最も一般的なのは、全国各地で行われてきた「眠り流し」という民俗行事と共通するものという民俗学の考え方です。「眠り流し」は暑い夏に襲ってくる睡魔や災厄を追い払う行事で、灯ろうに眠気や悪霊を乗り移らせて川や海に流すものです。それが青森県では次第に華やかな灯ろう祭りに発達し、現在の「ねぶた」「ねぶた」になったという説です。農民の行事として行われたねぶたは、特に都市部において発展してきました。

## ねぶたの歴史

藩政時代のねぶたに関する記録は、弘前藩の城下町である弘前のものが多く、「弘前藩庁日記 御国日記」享保七年(1722)七月六日条に五代藩主信寿が城下で「ねむた流し」を見物したことが記されています。

青森ねぶたが文献に登場してくるのは天保十三年(1842)で、「柿崎日記」に記述されているものです。天保三年から続いた凶作(天保の大飢饉)もようやく好転の兆しが見え始めたこの年、また、大人たちは以前のようにねぶたを出すまでには至らず、子供たちだけの七夕祭だったようです。この日記から、ねぶたが本来大人たちによつて町内単位で出されるものであることや、七月ということから、ねぶたが七夕祭であることがうかがえます。また、浜町の豪商滝屋家に伝わる記録「家内年表」では安政元年(1854)七月六日、安方町、上米町のねぶたがあまりに大きく、時節をわきまえないものだととして、七、八軒が謹慎処分となったとあります。

さらに、明治二年(1869)の「柿崎日記」には、ねぶたの題材や規模についての記述が具体的に出てきます。明治維新とともに人々の気分も新しくなったのか、七夕祭にはかなりのねぶたが出て、大型化していきました。一



図① 今純三が描いたねぶた運行の光景(昭和初期)

方、当時は知事が中央から送られてきたという背景があり、また、祭りにけんかが絶えないなど、ねぶたは悪しき風習として明治六年にはねぶた禁止令が出されました。以後約十年間の禁止の時期がありました。その後約十年間の禁止令が撤廃されました。明治時代の青森ねぶたの歴史は、青森町から青森市へと商業・交易都市とし

て発展していった町の性格を象徴しているともいえます。

大正時代に入ると、大正二年(1913)の大凶作の影響や後期の不況により、経済は少しずつ後退していきました。青森ねぶた(写真①)も、この影響を受け、運行台数が減り、形も明治期に比べ、小さめに推移したということはありませんが、旧暦の七月六・七日の盛り上がりは不景気を吹き飛ばせとばかりに年々高まつていったようです。

昭和三年、洋画家今純三(こんじゆんぞう)が描いたスケッチは昭和初期のねぶたを知る上で大変貴重な資料です(図①)。この図は運行の光景ですが、電線を持ち上げるためのサスマタを持った人、ねぶたの照明がろうそくなので燃えたときにたいたいて消火するためのササラを持った人などが描かれています。さらに、ねぶたは一人担ぎで、四方から竹で支え



写真① 大正時代のねぶた

る人たちがついています。

ねぶた祭りは第二次世界大戦前までは、大々的に行うことはなく、青森市の旧市街地や周辺の地域で伝統的な年中行事の一つとして行われていました。そのため、旧暦七月上旬に各運行団体が独自で運行する期間やコースを定めていました。大型のねぶたは三日くらいから運行し、その前に各町内の子どもの小型ねぶたが出て、家々から寄付金や菓子などをもらって回りました。

「青森港祭り」から「青森ねぶた祭」へ

青森市は昭和二十年七月の大空襲により潰滅的な被害を受け、当然ねぶたは出されることなく翌月終戦を迎える



写真② 青森港祭り(昭和30年)

ことになりました。食えることが一杯の生活の中で、市民は翌二十一年にはねぶたを復活させました。そして二十二年には「戦災復興港祭り」、また昭和二十三年には「市制施行五〇周年港祭り」として、規模を拡大して多彩な催し物が行われました。このときの趣向として最終日のナヌカビ(旧暦七月七日)にねぶたの海上運行が行われ、海に浮かぶ華麗な情景は、花火大会とあいまって、海岸に集まった市民を熱狂させ、最高の盛り上がりを見せたといえます。

昭和三十三年青森市は市制六〇周年を迎え、それを契機に「青森港祭り」(写真②)は「青森ねぶた祭」と名称を変えました。写真③は第一回青森ねぶた祭のプログラムです。

伝統的民俗文化財としても貴重であるねぶたは、昭和三十八年には青森市の無形民俗文化財に指定され、さらに、昭和五十五年には国の重要無形民俗文化財として指定されました。

青森ねぶた祭は日本を代表する祭りとなり、全国の行事に参加したり、海外遠征するなどして絶賛を浴びています。観光客も年々増加していき、今日に至っています。

近年、伝統的な文化が失われつつある中で、本来の「地域の祭り」を見直そうという動きも出てきています。また、平成十三年には、「青森ねぶた祭保存伝承条例」が制定され、市民みんなが青森ねぶたを正しく継承していかうとしています。さまざまな問題を抱えながらも「青森ねぶた祭」は青森の人々にとってかけがえのない祭りになっています。この祭りへの理解を深め、大いに楽しみたいものです。

(市史編さん室嘱託員 三上洋子)

日	時間	内容
8月1日	11時	開演の嵐(大森山崎七郎指揮)
8月1日	12時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	13時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	14時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	15時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	16時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	17時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	18時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	19時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	20時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	21時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	22時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	23時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	24時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	25時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	26時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	27時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	28時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	29時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	30時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	31時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	32時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	33時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	34時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	35時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	36時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	37時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	38時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	39時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	40時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	41時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	42時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	43時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	44時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	45時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	46時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	47時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	48時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	49時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	50時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	51時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	52時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	53時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	54時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	55時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	56時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	57時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	58時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	59時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	60時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	61時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	62時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	63時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	64時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	65時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	66時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	67時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	68時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	69時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	70時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	71時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	72時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	73時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	74時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	75時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	76時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	77時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	78時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	79時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	80時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	81時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	82時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	83時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	84時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	85時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	86時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	87時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	88時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	89時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	90時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	91時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	92時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	93時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	94時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	95時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	96時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	97時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	98時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	99時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)
8月1日	100時	青森市立音楽堂(大森山崎七郎指揮)

写真③ 昭和33年の「青森ねぶた祭」プログラム